

学校だより 希望の鐘

ひとつのつぼみはちどしかにひらかない



八戸市立
小中野中学校
平成30年11月8日(木)
No.136 文責：校長
工藤聡

晩秋の夜長におすすめの3冊

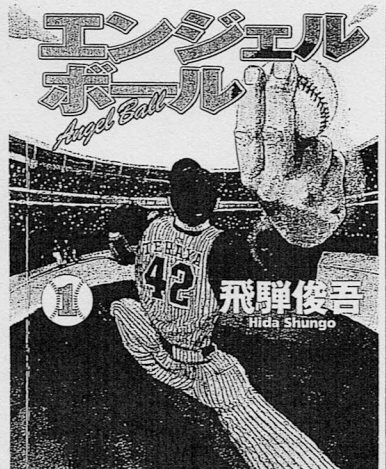
昨年9月、学校だより97号で、図書室にある瀬尾まいこさんの本を紹介しました。「読書の秋」にできるだけ本を読んでもらいたいという気持ちからでした。その後1か月くらい時々図書室に行き、その本が借りられているか見ていたのですが、いつも置いてある場所に必ずあって、少しガッカリしたことをおぼえています。それと同時に、みなさんが本当に読みたいと思う本はどんなものだろうかといつも考えていました。そこで、今日は満を持して(マンガジス：十分に用意をして機会を待つこと)、3冊紹介します。

1冊目は、武田綾乃さんの『響け！ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部へようこそ』です。あらすじは、「物語の舞台となる北宇治高校は10年ほど前までは吹奏楽の強豪校だったが、今ではすっかり落ちぶれている。小学生の時から吹奏楽を続けている、ユーフォニアム演奏歴7年の久美子は、級友たちの誘いを断れず吹奏楽部へ入部する。新しい顧問は、北宇治高校が強豪校だった時の顧問の息子らしい。関西大会への代表校を決める京都府大会の結果は…。」となっています。この作品はアニメ化されているので、観た人もいるかもしれません。第2巻『北宇治高校吹奏楽部のいちばん熱い夏』、第3巻『北宇治高校吹奏楽部、最大の危機』と続くのですが、大変な人気のため売り切れで、なかなか手に入らないということでした。館先生に購入をお願いしているのですが、果たして入荷するのか？こちらにも汗握る(テナアセニギル：緊張感やハラハラドキドキの様子を表す言葉)展開です。

2冊目は、飛驒俊吾さんの『エンジェルボール 1巻～4巻』です。「広島カープを舞台とする物語で、千葉ロッテマリーンズや東京読売ジャイアンツ等、実在の球団が出てきます。広島県でトラック運転手をしながら二人の息子を育てている42歳の寺谷和章は、ある夜交通事故にあうのだが、目の前に現れた謎の天使に〈思いのままに投げられる魔球〉を授かることになる。「プロ野球選手になってカープを日本一にする」という子どもの頃に思い描き、いつしか諦めていたその夢を叶えようと、和章は広島カープの入団テストを受けに行くが…。」というあらすじです。ジャイアンツの阿武隈、タイガースの金内等の実在する野球選手を想像させるような人物も登場します。また、主人公が投げられる魔球の数は決まっていて、それ以上投げると命がなくなってしまうかもしれないという条件もついています。あまりの面白さと感動で、私は4巻を一気読みすると同時に、続けてもう一度最初から最後まで読んでしまいました。家族のあり方も考えさせてくれる秀作(シュウサク：非常にすぐれた作品)です。

3冊目は、昨年も紹介した瀬尾まいこさんのもので『君が夏を走らせる』という本です。あらすじは「髪は金髪、耳にはピアス、眉まで剃っている男子高校生の大田は、3つ上の先輩から1歳10か月の娘の世話を頼まれる。奥さんは入院しなければならず、先輩は仕事があるため面倒がみれない。夫婦の両親には勘当(カンドウ：親が子に対して親子の縁を切ること)されているため、どうしてもという事で断れなかった大田だが、しだいに子育てや幼い娘への愛情にめざめていって…。」というものです。私も最後まで読んでいないので、どうなるかはまだわかりません。ただ、途中から一気に読んでしまうのがもったいなくなって、大事に少しずつ読むことにしています。昨日は、3年2組がちぐさ保育園に行きました。幼児を目の前にすると、どんな人でも優しくなると言われます。また、将来保育士を目指している生徒も小中野中に何人かいます。絶対プラスになりますよ。

間もなく4次テストです。勉強で忙しい？と思いますが、息抜きは必要です。ゲームをしたりユーチューブを見るだけでなく、読書もしてみてください。



基本は宿題とコナノートをやることです

今から44年くらい前ですから、大雑把（オオザッパ：おおまかなこと）に言えば、半世紀近く昔の話になります。

私は、弘前市にある弘前高校に入学したての1年生でした。5月に、入学後最初の定期テストがありました。各教科とも百点満点ですが、なぜか数学だけは二百点満点だったのを覚えています。数学は中学時代は好きではなかったのですが、なぜかテストの点数はよくて、自分自身得意教科だと思っていました。しかし、いざテストを受けてみると、「これは出来た」と自信を持って言える問題は皆無（カイム：全然ないこと）で、「どうしたんだろう」「なぜわからないんだろう」とあせりながら、解きすすめていました。それでも、解答欄はうめてはいたので、答案が返却されるまでは悲惨なことになるとは思いもしませんでした。テストの日から3日ほど経過して、答案が渡りました。数学の教科担当は、偶然にも担任のI先生でした。渡すまでに簡単に解説をするのですが、心なしか（ココロナシカ：気のせい）私を見る目が厳しいように感じました。そして、いよいよ返却の時となりました。担任が少しかん高い声で「クドーくん」と私を呼びました。そして手渡された答案には、名前の横に無情（ムジョウ：思いやりや同情心がないこと）にも「0」の数字がついていました。ほかの生徒には無言で答案を返していた担任も、私の時だけ「クドーくん、このままじゃあ進級できないよ」と声をかけてきました。無性に（ムショウニ：むやみやたらに）悲しくて恥ずかしい気持ちでしたがなぜか悔しいとは思いませんでした。翌日にはさっそく母が学校に呼ばれ、担任のI先生から「弘前高校始まって以来の不名誉なことだ。」というようなことを言われたそうです。これ以後、数学は私にとって鬼門（キモン：苦手な事柄や人物、場所をあらわす）となりました。さすがに担任のI先生も、自分で教えている中から進級できない生徒を出すのはマズイとでも思ったのか、テストの際には似たような問題を一問だけ出すようになったので、私はそれを必死に暗記して、なんとか留年（リュウネン：決められた単位を取れないため、進級できずにそのままの学年に留めおかれること）を免れたのでした。しかし、よくよく考えると、数学のテストで二百点満点の0点だったにもかかわらず、360人中の357番でしたから、私の後ろに3人もいたことになります。病気で欠席以外でたぶん3~4人も留年者を出すことはありませんから、「進級できないよ」は担任のI先生なりの愛情のこもった叱咤激励（シツタゲキレイ：大声で励まして、奮い立たせること）だったのかもしれない。

ところで、中学生時代は好きではなかったものの、得意教科と思っていた数学で、なぜ急に0点をとってしまったのでしょうか。今思うと、中学生の頃は宿題をきちんとやっていた、それが勉強をすることになっていたのではないかということです。しかし、弘前高校では宿題はほとんど出されず、生徒の自主性にまかされていました。私は、それを極めてラッキーなことだと勘違いして、家では全然勉強しなかったのです。その報いを受けた（ムクイヲウケル：罰を受ける）結果が「0」だったのだと思います。

さて、みなさんはどうでしょうか。3年生はいよいよ受検が間近に迫ってきています。今週から、進路選択のための三者面談も始まりました。三者面談を終えた生徒の中には、「何で1年生の時から真面目に勉強しなかったんだろう」と後悔する言葉を言う人もいます。そして、「これからは真面目に家や塾で勉強する」と続けます。ただ、その前にやることではないでしょうか。勉強や塾の前に、まずは各教科の宿題やコナノートをしっかりやることです。それが一番の土台となるのですよ。これは1・2年生も同様です。授業を真面目に集中して受け、そこで出された宿題や課題をしっかりこなすことが、将来の受検や進路実現につながっているのだと思います。

私が0点をとった話は、もちろん自慢でも何でもありません。もしあそこで0点をとっていなかったら、60歳になった現在の私は何をしているのだろうか…と、時々深く後悔とともに思い出す話です。

（11月6日の生徒朝会での校長講話を編集しました。）

【今日のひとり言】

●今日の私の似顔絵は、年組のさんに描いてもらいました。一昨日、さんが三本木農業高校主催の生物・環境・食のコンクール「さんのうコスモ賞」において、奨励賞に輝いたという連絡がありました。そして驚くことに、入賞の賞品は両手いっぱい農産物でした。その農産物で、ご家族に何か料理を作ってあげてはいかがでしょうか。私に娘はいませんが、もし入賞した賞品で作ってもらった料理を食べたら、その味がどんなものであれ一生忘れられないと思います。

●私が一昨年の4月26日に「希望の鐘No.37」を出してから、今日のNo.136で通算100号となりました。前の佐藤教頭先生が、「学校だよりは『希望の鐘』という名前です36号まで出ていますから、それに続けてはどうですか」と言ってくれたことがきっかけでした。3年間で100号は出したいなあと思っていましたが、何とか目標を達成することができました。それもこれも、私のくだらない話につきあっていただいたり、「楽しみに読んでいます」という地域の方々の応援があったからだだと感謝しております。あといくつ出せるかわかりませんが、これからもがんばります。よろしく願いいたします。